熊本日日新聞
kumanichi.com
夕刊
発行所 熊本日日新聞社
〒860−8506
熊本市中央区世安町172
☎代 表(096) 361−3111
©熊本日日新聞社 2015年

2015年(平成27年)
4/30(木)
Thursday

きょうの発言

熊本捕虜収容所

高谷 和生
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

2013年10月、英国からジョン・E・マーティンさんが来日されました。目的は父親が収容された熊本市東区三郎塚にあった福岡俘虜収容所第1分所、通称「熊本捕虜収容所」を訪ねることでした。

マーティンさんから提供された手記によると、陸軍兵だった父親は、太平洋戦争緒戦にインドネシア東部のティモール島で日本軍の捕虜となり、1942年11月に門司港到着。列車で熊本へ運ばれました。

第1分所が開設されたのは同年11月。翌43年11月までの1年間、捕虜たちは健軍飛行場の造営工事などに従事しました。当時、捕虜のイギリス人が「ここはもうすぐイギリスの占領地になる」と話していたという証言も聞いたことがあります。その後、第1分所は福岡に移転します。敗戦時の収容人員は米・英人ほか381人、収容中の死者は147人に上りました。

本土空襲が始まると、墜落機の米兵たちは一般捕虜とは区別され、無差別爆撃の戦犯容疑者「敵機捕獲搭乗員」として多くの虐待事件が発生しました。

福岡俘虜収容所が配置された自治体は九州・山陽地方の23カ所、うち案内板や慰霊碑があるのはわずか6カ所です。

戦後70年。戦った相手国においても戦争の記憶が確実に埋もれつつあります。体験の記憶を後世につなぐとともに、日本政府も私たちも加害の歴史に向き合い、戦争の惨禍を招かない道を探っていく必要があるのではないでしょうか。

2015.4.30